

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
治風剂 疏散外風剂 9		
<p>しょうふうさん 消風散</p> <p>外科正宗</p>	<p>疏風養血・清熱除濕</p> <p><主治> 湿疹、風疹（風湿熱毒） 紅色の膿疹、湿疹が反復して出沒し痒痒がつよく、搔破すると滲出がみられ、舌苔が白あるいは黄、脈が浮数で有力を呈す。</p> <p><病機> 風湿熱毒の邪が深く血分に入り、氣血と結びついて邪正相争し、内に泄路がないため三焦を通じて肌膚に外犯し、全身の皮膚病変を生じる病態で、反復し多彩な皮疹がみられることが多い。 風邪は「数行りよく変ず」で、皮疹の出沒、痒痒などを引き起こし、頭面、後背など上半身に病変を現わすことが多い。熱毒の邪は発赤、腫脹、熱感、甚だしい痒痒を、湿邪は滲出、びらんなどを引き起こす。病変が反復持続すると血分を損傷し、病変部に乾燥や萎縮の局面を引き起こす。蕁麻疹（風疹）、湿疹として発症することが多く、舌苔が白～黄、脈が浮数で有力は風湿熱を示すが、風、湿、熱のいずれが盛んかにより変化があり、一定したものではない。</p> <p><方意> 疏風を主体に、清熱除濕を補助とする。 祛風の荊芥・防風・牛蒡子・蝉退は、腠理を開発して風邪を外透して除く。散風燥湿の蒼朮、清熱燥湿の苦参、滲利湿熱の木通は、湿熱の邪を除く。清熱瀉火の石膏・知母は熱邪を清する。清熱涼血の生地黄、和營活血の当归、養血潤燥の胡麻仁の配合は、血熱を除き、消耗した陰血を滋潤するためである。生甘草は、解毒および和中、調和諸薬に働く。</p> <p><参考> 本方（消風散）は蕁麻疹（風疹）、湿疹に対する常用方である。</p> <p>加減法 風熱が盛んで、強い痒痒、皮疹の出沒、上半身の皮疹が顕著などを呈するときは金銀花・連翹などを加える。 血熱が盛んで、発赤、腫脹、熱感が強いときは、赤芍・紫根・茅根などを加える。 湿熱が盛んで、滲出、びらんが明らかなきときは、地膚子・車前子などを配合する。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 分泌物が多く、かゆみの強い慢性の皮膚病（湿疹、蕁麻疹、水虫、あせも、皮膚痒痒症）</p>	<p>当帰・生地黄・防風・蝉退・知母・苦参・胡麻仁・荊芥・蒼朮・牛蒡子・石膏各3g・生甘草・木通各1.5g 水煎し服用する。</p>